

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	マザーズハウスはばたき		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 10日		2025年 2月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2025年 2月 17日		2025年 2月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	セラピストによる関わり・分析などを常に教示してもらえる環境を活かし、個々の状態、課題に合わせたプログラムを提供することができる	子どもの心がほどよい刺激を受け、「やってみよう」と思う気持ちを引き出し「できた」につながるプログラムの提供	スタッフのスキルアップ(特性の理解、観察する視点)
2	グループ法人の就労B型事業所との連携 つながる支援の実践	施設見学や職業体験の実施 幼児期から青年期までの支援の継続	見学や体験先の開拓 法人内各事業所との共有・連携・交流
3	自立した生活が送れることを目標に、様々な取り組みにチャレンジできる環境	仕事に繋がるプログラム、余暇に繋がるプログラムなどを組み合わせたり、将来の生活の中で起こる出来事を想定し生きる力をつけていけるようなプログラム	すきまのプログラムなど、スタッフの持ちネタを増やす

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内、限られたスペースの活かし方	開所時の利用児童と現在の利用児童の特性などの変化	現在の利用児童の特性、動線などを再度分析し必要な改善をしていく
2	就労準備についての方向性と具体的なプログラムの構造化	利用児童の特性の変化及び支援学校生と地域の学校生とのバランス	就労準備の取り組み方を従来の仕事に直結する内容から生活の質の向上・自立した生活に向けてという方向に柔軟に捉え、数年後の利用児童の生活を見据えた取り組みの構造化を図る
3	地域との関わりや保護者との交流などの機会が少ない	閉鎖的ではないと考えるが、日常の活動をどう広げていくかの具体策に欠ける	現在実施している販売プログラムを見える化し、地域の方にも足を運んでもらえるような工夫をする。 また、その機会を保護者にもオープンにし保護者が気軽に見に来られる場面の創設と交流を推進していく